

北海道e-水プロジェクト

～北海道の豊かで美しい水を中心とした自然環境を守る協働取組～

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

1 北海道e-水プロジェクトの立ち上げ

北海道には、広大な大地を流れる大小様々な河川や美しい湖沼、釧路湿原をはじめとする13カ所のラムサール条約湿地があり、さらに、周囲をすべて海岸線に囲まれ、オホーツク海沿岸では、豊富なプランクトンを含む流水が世界自然遺産に登録された知床の豊かな生態系を育んでいるなど、世界的に見ても素晴らしい水環境に恵まれた大地です。

こうした北海道の「水」を中心とした豊かな自然環境は、道内に生活する人々の暮らしだけではなく、農林水産業や観光業をはじめとする道内産業を支える基盤ともなっており、北海道になくてはならない貴重な財産となっています。

このかけがえのない自然を次世代までより良い形で残すために生まれたのが「北海道e-水プロジェクト」です。

本プロジェクトは、平成21年11月に北海道と当社が締結した「環境保全活動に関するパートナーシップ協定」に基づく、北海道、当社及び公益財団法人北海道環境財団の協働事業であり、当社が北海道限定で製造販売するコーヒー「ジョージアサントスプレミアム」

北海道限定デザイン（以下「サントス」）の売上げの一部の寄付により、道内の水辺における清掃活動や環境教育、外来種防除など環境保全に取り組む団体の活動を支援するものです。

2 生活者参加型（CRMの手法を取り入れた）の取組

道産子企業である当社は「北の大地とともに」を基本理念に、事業活動を通じて地域課題解決に向け取り組んでいます。具体的には、防災・防犯に関する活動により安全・安心なまちづくりに対する取組を行うほか、地域課題解決のための様々な連携、環境面においては全国のコカ・コーラシステム共通の取り組みとして「製品に使った量と同じ量の水を自然に還元する」という目標を持った「Water Neutrality」に基づき水源涵養を行うなど、産学官民と協働・連携し継続的な活動を行っています。その活動の一つである「北海道e-水プロジェクト」は、その活動原資を当社が、北海道限定で販売する「サントス」の売上げの一部を環境財団に寄付し、同財団を通じて水辺の環境保全に取り組む団体の活動を支援するもので、CRM（コースリレーテッドマーケティング）の手法を取り入れています。

この「サントス」は、当社が位置する札幌市清田区の白旗山の山林を水源とする良質な地下水や、道産の乳や糖を原料として製造されている「北海道産」のコーヒーです。「サントス」のパッケージには、道南のラムサール条約登録湿地である「大沼」、日本を代表する湿原である「釧路湿原」、広大な原始山岳環境として有名な「大雪山」、広大な畑作地帯が広がる「十勝平野」の4種類のデザインを冠し、本プロジェクトの取組内容を記載するとともに、生活者へプロジェクトのPRと参加を促しています。北海道ならではの美味しさで地産地消を応援し、「北海道の環境を守るあなたの1本」をキャッチフレーズに取り組んできたことにより、これまでの寄付金は、平成20年、21年の直接北海道へ寄付

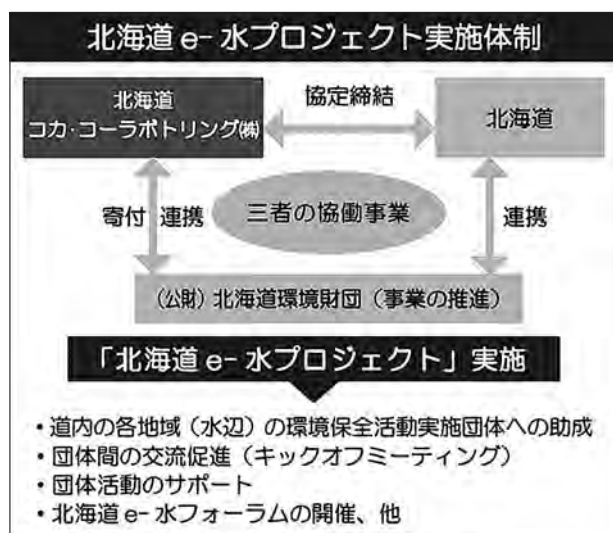


図1 「北海道e-水プロジェクト」実施体制



写真1 売り上げの一部が活動原資となる「ジョージアサントスプレミアム」北海道限定デザイン



写真2 1億円突破記念写真

していた分を含めると平成28年までの9年間で、約1億170万円となり、実に2億本を消費者の皆様にご愛飲いただき、応援していただいたことになります。

3 横のつながりを促すミーティング・報告会

この取組は、4月1日から11月末日までをその年の助成対象期間とし、毎年3月に採択団体を決定しています。採択後は支援団体間の連携を図るため、事業着手時の4月に各団体代表者や担当者を集め、それぞれの取組内容を共有する「キックオフミーティング」を開催しています。各団体から期間内の活動計画を説明していただき、関係者との活発な意見交換を行っています。ミーティングで採択団体が一同に会することによって、それぞれの活動に責任が生まれ、活動成果を最大限に引き出す効果があり、また、これまでの全採択団体が登録しているメーリングリストも開設し、日常的な情報交換もサポートしています。

事業が終了した11月には、活動報告会を札幌で開催し交流を図っています。これにより互いの活動に関する情報交流が進み、補完的な活動（別団体の指導者として現地に赴くなど）も実際に生まれています。特に道内に広がった外来生物の駆除活動などは一団体の取組では効果が見出しにくいことから、積極的に情報交換



写真3 当社で行われる「キックオフミーティング」

を行うことで効率的な駆除方法や成果の共有を図っています。平成27年からは「キックオフミーティング」を当社で開催し、北海道内各地で営業活動を行う当社社員も参加し、地域の絆や連携の創出も図っています。

4 市民への啓発と活動成果報告としてのフォーラム

11月の活動報告会に合わせ、市民向けの行事として「北海道e-水フォーラム」を実施しています。平成22年から毎年実施しており、各団体の発表に併せて、水環境保全の重要性を普及啓発するため、有識者による基調講演も実施しています。有識者の選定にあたっては、環境活動に熱心な芸能人から、猛禽類を中心とした傷病鳥獣保護の専門家、森川海のつながりの恩恵を受ける漁業者、コウノトリをまちづくりに活かす首長、浄水や世界の水環境をよく知る有識者、水環境と生態系に詳しい専門家などを招聘し、水環境をさまざまな切り口から解説する視点で企画しています。また、「サントス」を購入していただいた皆様への感謝や資金の有効利用に関する報告としての意味も持たせています。本フォーラムへの関心は非常に高く、多い回で170名近い来場者に恵まれています。



写真4 一般市民の前で活動成果を発表する「北海道e-水フォーラム」

これまでの基調講演者（所属は当時のもの）

回（開催年）	講師名（所属）	演 題
第1回 （平成22年）	中本 賢 氏 （俳優・神奈川県川崎市教育委員）	偉大なる近所「川はオモシロイッ！」
第2回 （平成23年）	江戸家 猫八 師匠	水辺にくらす野鳥のさえずりから学ぶ ～江戸家 猫八 師匠のたのしいものまねとお話
第3回 （平成24年）	齊藤 慶輔 氏 （猛禽類医学研究所代表・獣医師）	猛禽類保護から見える水辺環境の現状と課題
第4回 （平成25年）	畠山 重篤 氏 （NPO法人森は海の恋人理事長）	森・川・海 つながりから考える気仙沼からの提言
第5回 （平成26年）	中貝 宗治 氏 （兵庫県豊岡市長）	コウノトリと共に生きる～豊岡の挑戦～
第6回 （平成27年）	小林 三樹 氏 （公益財団法人北海道環境財団理事長）	水をめぐる、もうひとつの北海道史 これからも水の恵みを受け続けるためには…
第7回 （平成28年）	中村 太士 氏 （北海道大学大学院農学研究院教授）	水をめぐる生態系のつながり ～自然を生かした地域づくりの提案

5 地域の必要性と環境課題に対応した資金提供

「北海道e-水プロジェクト」の助成対象は、「北海道内の水辺（川、海、湖沼など）における環境保全活動を行う団体」としています。また、「水辺」の捉え方も、「環境保全活動」としても、対象範囲は広く、これまでも様々な事業に助成を行っています。ここ8年間で助成したテーマを振り返ると、水質保全、湿地保全、水辺生態系などの保全やそれにつながる調査活動、環境教育活動、普及啓発活動、水辺に親しむ活動などのキーワードが挙げられます。平成25年からは、これまでの個別団体への助成に加え、流域ネットワークに対する助成を開始し、河川の集水域、上流から下流のステークホルダーがネットワークを組んで応募した案件も採択するようになりました。

毎年度、20～30団体の応募数のなかから8団体程度を採択し、総額で700万円程度の助成を行っており、実情は非常に狭き門となっています。平成22年の開始以降8年が経過し、平成29年までに助成した団体は、60（延べ83）団体、助成総額は6,000万円以上に上ります。選考委員会では、「テーマとの整合性」「水環境への貢献度」「地域との連携」「継続性・将来性」「波及性・共感性」「新規性・独自性」「環境課題の解決力」「北海道らしさ」などを基準として、厳正に審査を行っていますが、本プロジェクトへの申請案件が、北海道の水環境の課題を映し出していると言っても過言ではなく、また年々レベルは上がってきており、選考は長時間にわたる議論となります。

たる議論となります。

少々内容を説明させていただくと、開始年から毎年必ず入ってくるテーマが、水辺の特定外来生物であるウチダザリガニの防除事業です。ウチダザリガニは、昭和5年に食用としてアメリカから摩周湖に導入され、その後道内各地に持ち出されたと考えられています。現在では、北海道の河川・湖沼の多くからその存在が報告されており、その繁殖力の強さから一部では蔓延状態と考えられています。申請内容は、ウチダザリガニの有効な駆除方法の確立や、自然体験や環境教育の題材として駆除を実施したり、道内にいくつかある防除団体のネットワーク化を図り、情報交換や連携を図る取組など、このテーマひとつをとっても非常に多様な活動があります。



写真 5 北海道の河川・湖沼で問題となっている特定外来生物ウチダザリガニ

そのほか、近年注目される案件としては、流域ネットワークとしての活動で農業者と漁業者が連携した活動が見られるようになってきたことです。北海道の東部には大酪農地帯が存在しますが、河川や湖沼の水質悪化に対し、近年、自治体などの関係者の協働によって、牧草地と河川の緩衝地帯に植林をするなどの活動が見られるようになり、本プロジェクトでも支援した事例があります。「網走川流域の会」では、網走川が流域の林業と農業を育み、下流の湖と海では豊かな漁業を営んでいることをスタディツアーの形で触れ、網走川の豊かな自然の恵みを受けていることを啓発しています。

このように「北海道e-水プロジェクト」は、地域の人々が連携して取り組む環境課題の解決に貢献しています。



写真 6 網走川流域の会による「川の生き物を探そう」

これまでの採択団体名・事業名の一覧

平成22年

	団体名	事業名	所在地
1	財団法人自然公園財団大沼支部	大沼環境保全プロジェクト	七飯町
2	歴舟川の清流を守る会	歴舟川流域における水環境保全に向けた取組	大樹町
3	ざりがにに探偵団	道北域における特定外来生物ウチダザリガニの防除活動	旭川市
4	NPO法人ピオトープ・イタンキin室蘭	「獲物のあるピオトープ」づくり	室蘭市
5	NPO法人ふらっと南幌	みずとみどりのまち南幌：環境再生・保全事業	南幌町
6	美幌町郷土史研究会	特定外来種ウチダザリガニの駆除活動とそれに関わる河川環境理解に向けた教育普及用小冊子の作成	美幌町
7	羽幌みんなでつくる自然空間協議会	福寿川流域の「自然空間はぼろ」整備と環境学習事業	羽幌町

平成23年

	団体名	事業名	所在地
1	厚沢部町河川資源保護振興会	厚沢部川における水産資源保護・増殖事業及び水辺環境保全に関する啓蒙活動	厚沢部町
2	ぱん・ぱん・ぱんぷきん	音更川グランドワーク・親水塾、27年目のトムソーヤー	士幌町
3	白老町環境町民会議	①クッタラ湖における環境保全のための水質調査や水生生物調査 ②水環境に関する普及啓発のための白老町水環境セミナーの開催	白老町
4	NPO法人占冠・村づくり観光協会	しむかつぷサクラマスプロジェクト	占冠村
5	栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会	夕張川流域「e-川」再生事業 ～e-川と森、土、海をつなぐ命の宿る川づくり～	栗山町
6	ザリガニと身近な水辺を考える会	ニホンザリガニ保全と外来ザリガニ問題を伝えるための啓発活動	小樽市
7	NPO法人ピオトープ・イタンキin室蘭	「獲物のあるピオトープ」づくり	室蘭市

平成24年

	団体名	事業名	所在地
1	NPO法人占冠・村づくり観光協会	サクラマス135プロジェクト	占冠村
2	NPO法人ふらっと南幌	幌向湿原固有種植生の再生・環境保全・活用事業	南幌町
3	NPO法人大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター	未来につなげ！世界にとどけ！大沼・湿地エコツアープロジェクト～水と生物とヒトとが共生するラムサール湿地を地域と目指す～	七飯町
4	釧路湿原国立公園連絡協議会	こども 体験型湿原学習「水辺探検隊」	釧路市
5	厚沢部町河川資源保護振興会	厚沢部川における水産資源保護・増殖事業及び水辺環境保全に関する啓蒙活動	厚沢部町
6	ザリガニと身近な水辺を考える会	ニホンザリガニ保全と外来ザリガニ問題を伝えるための啓発活動	小樽市
7	NPO法人ウヨロ環境トラスト	ウヨロ川における野生サケ保全活動の人材育成事業	白老町
8	羽幌みんなでつくる自然空間協議会	福寿川流域の「自然空間はぼろ」整備と環境学習事業	羽幌町
9	手稲さと川探検隊	手稲 環（わ）プロジェクト mizu音（おと）でみんなつながっている	札幌市

平成25年

	団体名	事業名	所在地
①	北海道ウチダザリガニ防除ネットワーク	市民による外来生物防除の環を広める活動	旭川市
②	野付半島・野付湾及び流入河川の環境保全ネットワーク	野付半島・野付湾及び流入河川における環境保全及び普及啓発事業	別海町
3	NPO法人NATURAS	「キラキラ水と遊ぼう」自然体験型環境教育事業	函館市
4	NPO法人ふらっと南幌	ほろむい七草(幌向湿原固有種植生)の再生・保全・活用実験事業	南幌町
5	手稲さと川探検隊	さと川さと森～水を旅していのちつながる～	札幌市
6	一般社団法人湿原研究所	十勝海岸湖沼群の生物多様性調査およびラムサール条約登録への啓蒙活動	大樹町
7	NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ	川がつながちと森、幌別川流域、森と水辺の里山づくり	登別市
8	尻別川の未来を考えるオビラメの会	絶滅危惧種イトウ尻別川個体群の繁殖地の保全活動	ニセコ町

平成26年

	団体名	事業名	所在地
①	阿寒湖のマリモ保全推進委員会	急増する水草によって生育が脅かされているマリモの保全活動	釧路市
②	CISEネットワーク	札幌圏における水源から河川流域および沿岸の自然環境や生物多様性を理解するための教材開発および講座の実施	札幌市
3	NPO法人天塩川を清流にする会	天塩川における河口周辺整備及び水辺の保全事業	天塩町
4	知床羅臼町観光協会	"知床国立公園50周年・世界自然遺産10周年 らうすの海いつまでもプロジェクト～みんなで守ろう羅臼の海～"	羅臼町
5	NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト	海と湿原のつながり調査プロジェクト	浜中町
6	NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ	幌別川流域・森と水辺の環境教育ネットワーク構築事業	登別市
7	一般社団法人洞爺自然環境共生センター	継続は力なり!一地域の活動を「持続可能な」全道の活動へー	洞爺湖町

平成26年(5周年記念特別助成)

	団体名	事業名	所在地
1	Friends of Shari River 斜里川を考える会	川の生き物観察会	斜里町
2	NPO法人あそベンチャースクール	ちびっ子水辺の生き物観察会	札幌市
3	札幌ワイルドサーモンプロジェクト(SWSP)	札幌ワイルドサーモンプロジェクト(SWSP)	札幌市
4	一般社団法人湿原研究所	「タイキ・フローラ」十勝海岸湖沼群 夏季植生調査・植物観察会	大樹町
5	NPO法人大沼・駒ヶ岳ふさとづくりセンター	子どもラムサール探検隊	七飯町
6	NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク	ペンケ沼クリーンアップ事業	豊富町
7	NPO法人水圏環境科学研究所	ワークショップ「豊平川の水環境」フィールドワーク	札幌市
8	宮島沼の会	自然戦隊マガレンジャー 夏の活動	美瑛市
9	酪農学園大学環境GIS研究室	スマートフォンやタブレットを活用した双方向型e-水マップシステムの構築	江別市
10	北海道自然観察協議会	第25回 滝野の自然に親しむ集い	札幌市
11	NPO法人TNR	都市公園の水辺から学ぶ環境保全	江別市
12	真駒内川水辺の楽校	夏の活動「川で遊ぼう!」	札幌市
13	めむろはたる自然ふ化の会	ホテルの生態学習会～ピウカ川のホテルを探そう～	芽室町
14	厚沢部町河川資源保護振興会	第2回親子川釣り大会・川の生き物観察会	厚沢部町
15	知内川の清流を守る会	知内川クリーンアッププロジェクト	知内町
16	朱太川漁業協同組合	朱太川天然アユ保全のための漁業・産卵場改善事業	黒松内町
17	NPO法人NATURAS	夏休みスペシャル企画★夏だぁ!おもいっきり水遊びをしよう!★とったど〜!!「魚つかみどり&ドキドキ川くだり」	函館市
18	一般財団法人北海道国際交流センター	海外ボランティアによる大沼の水質浄化活動	函館市
19	手稲さと川探検隊	手稲の「水」ざわめく自然 つながるいのち	札幌市
20	NPO法人札幌オオドリ大学	ドニチカキップでめぐる真夏の雪ツアー	札幌市

平成27年

	団体名	事業名	所在地
①	別寒辺牛川・ホマカイ川流域環境保全協議会	別寒辺牛湿原及び厚岸湖の水環境保全活動	厚岸町
2	福豊川に魚道をつくる会	みんなで作ろう手作り魚道	美幌町
3	NPO法人C・C・C富良野自然塾	「水」と人の繋がりから地球環境を考える体験型学習事業	富良野市
4	NPO法人北海道田園生態系保全機構	平成27年度 自然観察会及び田んぼの学校	札幌市
5	然別湖生物多様性保全協議会	外来生物防除対策事業	鹿追町
6	NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト	海と湿原のつながり調査プロジェクト	浜中町
7	知床羅臼町観光協会	世界自然遺産10周年 らうすの海いつまでもプロジェクト～みんなで守ろう羅臼の海	羅臼町
8	夕張川自然再生協議会	夕張川自然再生協議会を基にした流域市民連携のいい川づくり	栗山町

平成28年

	団体名	事業名	所在地
①	網走川流域の会	自然と人と産業が共存する網走川流域学習事業	網走市
2	丸瀬布昆虫同好会	武利川再生プロジェクト	遠軽町
3	後志地域生物多様性協議会	水中の環境DNAで外来生物の分布調査	黒松内町
4	NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト	海と湿原のつながり調査プロジェクト	浜中町
5	クッチャロ湖等保全対策協議会	KODOMOラムサール湿地交流会in浜頓別	浜頓別町
6	北海道ウチダザリガニ防除ネットワーク	ウチダザリガニ防除発展連携プロジェクト	釧路市
7	夕張川自然再生協議会	夕張川自然再生協議会を基にした流域市民連携のいい川づくり	栗山町
8	NPO法人日本野鳥の会十勝支部	湿地の復元を目指してヤナギ幼木を抜き取りながら河川を清掃する	帯広市

※ 丸数字は流域ネットワークとしての採択団体（平成25年より新設）

6 社員や関係機関も巻き込んだ双方向の取組

道内各地で行われる採択団体の保全活動には、積極的に当社社員、道職員、環境財団スタッフが参画しています。特に当社社員の活動参画には、水と関わりの深い企業の社会的責任として、環境保全に対する意識を高めるという社員教育的側面が含まれています。活動に参加し、北海道内の水環境課題に直接触れることによって、当社が環境資源を使って企業活動を行っていることの役割と責任やCSR活動の重要性を肌で感じるようになります。道職員の皆様にとっても協働した地域の課題解決の現場を知ることが、環境政策を進める上で重要な情報源となります。すべての課題に対応できる訳ではありませんが、施策を動かす上で重要なことは、現場を熟知し一緒に動いてくれる市民団体の存在が不可欠です。このようなセクターとつながることは、環境政策を進める上で非常に貴重な財産となります。主に事務局を担当する環境財団スタッフにとっては協働に向けた活動団体との貴重な情報交換の場ともなっています。助成制度の使いにくい部分や評価が高い部分など、弱みを修正し、強みを伸ばしていける貴重な意見に触れることができます。



写真 7 当社社員も活動に参加（NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト）

7 三者の役割分担による最大効果の生産

連携して活動する当社、北海道、環境財団の三者は、企業、行政、中間支援組織というそれぞれが持つ機能を生かして、的確な役割分担のもとで、「北海道e-水プロジェクト」を推進してきており、チームワークは極めて良好です。

本プロジェクトが、発展的に継続していくためにはプロジェクトの意義や成果を広く周知し、多くの生活者や事業者、団体等の皆様に水辺の環境保全活動に参画いただくことが重要であり、北海道としても、毎年発行



写真 8 「サントス」による寄付金1億円突破と「北海道e-水プロジェクト」の重要性を訴える記事広告

する『北海道環境白書』において取組を報告するとともに、特別な予算を使わずに、様々な行政課題の解決や道民の皆様へのサービス向上を図ろうとする取組、いわゆるゼロ予算事業「赤レンガ・チャレンジ事業」にも位置づけられています。

環境財団では、北海道と同様に環境課題の最前線にいる立場から現場のニーズや状況を当社に報告するとともに、ほかの助成団体の状況も俯瞰し、本助成制度の継続的なリニューアルを提案しています。一例をあ

げると、平成27年には団体の資金負担を軽減する半額の前払い制度を実施し、平成28年には他助成制度にはあまりみられない汎用的な使用ができる備品の購入なども対象としました。前払い制度は、採択された団体のほぼ全体が利用しているほか、備品購入では、環境DNA抽出ろ過装置や水中ドローンなどが見られ、これらの物品はそれぞれのネットワークで、本プロジェクトの活動期間終了後も各地で有効に活用される予定です。

8 今後の展望

「北海道e-水プロジェクト」は活動開始から8年を経て、ブラッシュアップを重ね団体の活動レベルも上がってきています。ただし、一方で草の根的な団体の申請数は漸減傾向にあり、各地で活動する小さな団体も申請しやすいよう制度の見直しを継続していきたいと考えています。また、活動の原動力である原資確保のためにも生活者に対し、本プロジェクトにおける「サントス」の果たしている役割と北海道の水環境の状況を広く周知することで、「北海道e-水プロジェクト」の一層の活性化をはかるとともに持続可能な社会の実現を目指します。

北海道コカ・コーラボトリング株式会社